

平成28年10月17日

会 員 各 位

一般社団法人日本ビルディング協会連合会  
事務局

ビルのエネルギー使用量調査のご依頼に係る件

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は当連合会の活動にご協力いただき、有り難く厚く御礼申し上げます。

さて、当連合会は、低炭素社会実行計画における数値目標（ビル共用部の床面積当たりエネルギー使用量を2009年度比で2020年度まで▲15%、2030年度まで▲20%）の進捗状況を確認するため、毎年度エネルギー使用量を調査しており、今秋が2015年度（平成27年度）分の調査時期に当たりますが、併せて、2013及び2014年度分を再調査したいと存じます。

これは、昨年8月に2014年度エネルギー使用量を調査したところ、2013年度と比較しエネルギー使用原単位（MJ/m<sup>2</sup>・年）で大幅な削減結果（ビル計▲8.2%、共用部▲11.5%）となり、データの信頼性を高めるには、調査手法を見直した上で過年度分を再調査することが望ましいと判断したためです。

つきましては、大変お手数をおかけしますが、貴社が所有・管理するビルについて、2013、2014及び2015の各年度におけるエネルギー使用量につき、下記によりご回答くださいますよう何とぞよろしくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 回答方法

同封された調査票にご記入いただき、当連合会事務局あて同封されている封筒にてご送付願います。

なお、詳細については、別紙「調査の補足」をご覧ください。

2. 回答の締切日

平成28年11月28日（月）

以 上

本件についての問合せ先

（一社）日本ビルディング協会連合会 事務局（03-6268-0319）

担当 岡沢、金子（メール kaneko@birukyo.or.jp）

## ビルのエネルギー使用量調査の補足

### 1. 対象ビル選択方法の変更

従来は調査対象ビルを会員の任意選択としていましたが、定点観測を確実にするため、ビル実態調査にならって全数調査に変更します。

### 2. 調査票の種類について

#### (1) ビル実態調査の既回答ビル

ビル実態調査でご回答いただいた内容に基づき、ビル名、面積などの基礎データがあらかじめ赤字印刷されていますので、赤字箇所を適宜ご修正の上、空白部分をご記入ください。

#### (2) 上記以外のビル

ビル名、面積などを含め、すべての回答欄が空白となっている調査票を同封していますので、事務用途を有するオフィスビル（複合用途ビルを含む）がございましたら、回答対象に追加いただきますようお願いいたします。（全館自社ビル、商業専用ビル、賃貸マンションビル、企業の福利厚生施設は回答不要です。）

**※調査票の書式ファイルを連合会HPの最新情報にアップしますのでご活用ください。**

### 3. エネルギー使用量の回答方法の変更について

従来は、省エネルギー法で定期報告している場合は重油換算値（キロリットル）とし、それ以外は電力・ガス等の検針値による回答としていましたが、次のとおり変更します。

#### (1) 個別空調ビルの場合（空調エネルギーを検針値レベルで専用部・共用部ごとに区分できる場合）

→電力・ガス等の検針値をビル総計、専用部、共用部ごとにご入力ください。また、エネルギー全体の増減をご確認いただくため、検針値をもとにMJ値への換算をお願いします。（別紙1-1を使用）

#### (2) センtral空調ビルの場合（空調エネルギーを検針値レベルでは専用部・共用部ごとに区分できない場合）

→重油換算値（キロリットル）にてビル総計、専用部、共用部ごとにご入力ください。また、ビル総計の検針値を併記してください。（別紙1-2を使用）

#### 4. エネルギー使用量入力時のご注意

##### (1) ビル総計の電力・ガス等の検針値について

電力、ガス会社等からオーナーに請求された分をご記載ください。

供給会社からテナントに直接請求する分（例えば、店舗のガス使用量）は含めなくて結構です。

電力（夜間）の数値がご不明の場合、すべて電力（昼間）としてください。

##### (2) 専用部（貸室分）の検針値について

テナント課金メーター等によるテナント使用量合計をご記入ください。その値がご不明の場合は、貴社にとって合理的な方法で按分計算してください。

(例) 「エネルギー使用量（貸室分）」 = 「エネルギー使用量（総計）」 ×  
「貸室面積」 ÷ 「延床面積」

#### 5. 増減理由の回答票について

エネルギー総使用量の増減率が約3%以上変動した場合、次の回答票にご記入ください。

##### ①別紙2

2014年度エネルギー総使用量が前年度から大きく増減した理由

##### ②別紙3

2015年度エネルギー総使用量が前年度から大きく増減した理由

以上

別紙1-1 個別空調用 エネルギー使用量調査票

(空調エネルギーを検針値レベルで専用部・共用部ごとに区分できる場合)

<Excelシートによる入力例>

網掛け部分;自動計算

①延床面積 m <sup>2</sup>	②専用部(貸室分)	③共用部(①-②)	会社名	ビル協株式会社
6,957.00	4,541.00	2,416.00	ビル名	ビル協タワー

A ビル総計			2013年度(H25)	2014年度(H26)	2015年度(H27)
検針値	①電力(昼間)	kWh	1,058,146	1,036,984	1,026,400
	②電力(夜間)	kWh	123,949	121,462	120,268
	③都市ガス	m <sup>3</sup>	3,031	2,516	2,087
	④A重油	L	15,008	14,711	14,567
	⑤地域熱源	MJ	0	0	0

B 専用部(貸室分)			2013年度(H25)	2014年度(H26)	2015年度(H27)
検針値	①電力(昼間)	kWh	687,794	674,039	667,159
	②電力(夜間)	kWh	80,566	78,950	78,174
	③都市ガス	m <sup>3</sup>	1,970	1,634	1,356
	④A重油	L	9,754	9,562	9,468
	⑤地域熱源	MJ	0	0	0

C 共用部(A-B)			2013年度(H25)	2014年度(H26)	2015年度(H27)
検針値	①電力(昼間)	kWh	370,352	362,945	359,240
	②電力(夜間)	kWh	43,383	42,512	42,094
	③都市ガス	m <sup>3</sup>	1,061	881	731
	④A重油	L	5,253	5,149	5,099
	⑤地域熱源	MJ	0	0	0

検針値をもとにMJ換算値を計算します。

MJ換算値	①電力(昼間)	9.97MJ/KWh	10,549,718	10,338,726	10,233,204
	②電力(夜間)	9.28MJ/KWh	1,150,246	1,127,169	1,116,086
	③都市ガス	45MJ/m <sup>3</sup>	136,404	113,198	93,920
	④A重油	39.1MJ/L	586,793	575,181	569,585
	⑤地域熱源	1.36MJ/MJ	0	0	0
MJ換算計	①~⑤		12,423,161	12,154,274	12,012,795
MJ換算計の増減率(差分÷前年度)%				-2.2%	-1.2%

増減が±3%以上の場合、別紙2・3へ

## 別紙1-2 セントラル空調用 エネルギー使用量調査票

(空調エネルギーを検針値レベルでは専用部・共用部ごとに区分できない場合)

### <Excelシートによる入力例>

網掛け部分;自動計算

①延床面積 m <sup>2</sup>	②専用部(貸室分)	③共用部(①-②)
30,240.22	20,260.12	9,980.10

会社名 ビル協株式会社

ビル名 ビル協タワー

### 1. エネルギー使用量のKL(キロリットル)値

(省エネルギー法の定期報告に基づく)

	2013年度(H25)	2014年度(H26)	2015年度(H27)
A ビル総計 KL	1,210.2	1,192.1	1,163.2
B 専用部(貸室分) KL	847.1	834.2	824.2
C 共用部(A-B) KL	363.1	357.9	339.0

### 2. エネルギー使用量の増減率

増減率; (当年度-前年度) ÷ 前年度 %

	2013→2014	2014→2015
ビル総計	-1.5%	-2.4%

増減が±3%以上の場合、別紙2・3へ

### 3. エネルギー総使用量の検針値

ビル総計	①電力(昼間) kWh	3,582,753	3,045,340	297,231
	②電力(夜間) kWh	583,238	574,489	560,701
	③都市ガス m <sup>3</sup>	7,851	7,733	7,547
	④A重油 L	139,060	136,974	133,686
	⑤地域熱源 MJ	0	0	0